天保の改革

【てんぼうのかいかく】

老中水野忠邦が、1841～1843（天保12～14年）に行った江戸幕府の政治改革。

天保のききん・大塩平八郎の乱・日本近海に出現する外国船など、社会不安の高まるなかで老中となった水野忠邦は、享保・寛政の改革にならって天保の改革を実施した。

儉約をすすめ、風俗をただし、都市にでた農民を村に返す（人返し）いっぽう、都市の商業を独占する株仲間を解散し、江戸・大阪周辺の大名家・旗本領を取り上げて、他に代わりの土地をあたえる（上知令）など、改革政治を進めた。

しかし、その改革は幕府本位できびしすぎたため、2年余りで失敗に終わった。

- 幕末辞典 -